

第1号議案：2017年度事業報告

基本理念「この地球に住むすべての人々が人間として尊重され、自立し、良い環境の中で平和に暮らして行けることを願っています。」

地域や国家間での紛争が続き、不安な状況が続いています。人々が、安定を取り戻し穏やかに暮らせるよう、力に寄らない解決をすすめることを願っています。そんな中、アーシアンが担える役割と意義を確認し事業に取り組みました。

I. 交流支援事業

パキスタン、ラオスの支援をすすめました。特に、NPO法人日本ファイバーリサイクル連帯協議会(JFSA)との商品開発において、アルカイルアカデミーの縫製工房でエプロンを製作し商品化できたことは大きな一歩です。

1) パキスタン

アルカイルアカデミー職業訓練所支援

- ・アルカイルの訪日に合わせ7月と10月の2回ミーティングを持ち現地の状況を知ることができました。縫製科で学び、試験に合格できるよう取り組むことが、子どもたちの自信につながっています。
- ・今年度に入り縫製科の昨年度の運営費に不足金が生じていることがわかりました。理事会で協議の上、今年度の支援金は、35万円となりました。
- ・JFSAと共同で進めている商品開発は、縫製工房でエプロンを製作し販売することができました。
- ・男子生徒の職業選択の一つとして始まった機織り教室による手織り布を、JFSAと共同で活用に向けてすすめています。

2) ラオス

「サワナケート県農村部土地と自然資源の持続的な利用・管理支援プロジェクト」

NPO日本国際ボランティアセンター(JVC)支援

- ・7月に学習会を開き、ラオスの現状を知り、ラオス支援の意義を確認しました。
- ・9月にラオスの報告会を行い、現地の様子や新しい地域でのプロジェクトについて伺いました。
- ・アーシアンとして12月にラオスツアーを予定していましたが、新プロジェクトの活動許可がおりないため、中止となりました。

3) カレンダー販売

- ・JVC 国際協力カレンダーの販売に取り組みました。今年度より、カレンダー販売の収益のみがラオスの支援金となり、支援金は73,469円となりました。特に、千葉カタログでの取り組みが減少し、次年度の課題です。

4) その他

- ・イベントに参加し、フェアトレードを通じて支援に取り組んでいる他団体との交流をおこないました。

II. 販売事業

1) アーシアンショップ柏

事業計画に基づき、フェアトレードショップとして運営継続を目指した取り組みを実施しました。

- ・店舗の定休日を週1日増やすことで、少人数での運営を可能にし経費の削減をしながら外部出展も行うことができました。
- ・重要課題であったスタッフの増員は、年度末までに3名が加わることになり、業務分担も進めることができました。
- ・生活クラブ生協虹の街(生活クラブ生協)との連携を重視し、春のデポーまつりへ参加、「カレーの壺」をアピールするデポーマルシェを共催しました。そこでのつながりから3月に新しい試みとしてフェアトレードの親子学習会を共催することができました。また「デポーおたかの森」オープンに関連したイベントにも2回参加し協力しました。
- ・地域とのつながりでは、柏市・我孫子市の市民活動イベント参加の他、松葉町商店会主催の街ゼミへの参加や市内の開智国際大学大学祭への3年ぶりの出展を行いアーシアンの活動やフェアトレードの意義を伝えました。
- ・夏に「タイの手編みカゴフェア」を開催し、秋にはパレスチナ刺繍製品を仕入れるなど新しい取引先の開拓も行い各国の伝統文化や商品の背景を紹介しました。またJFSAとの共同開発のエプロンなどを取り扱うことでアーシアンのパキスタン支援を知ってもらう機会になりました。アレppo石鹸のキャンペーンも引き続き行いました。
- ・新たな事業として、生活クラブ生協センター柏でのカタログ販売の実施や柏市のふるさと納税返礼品登録を行いました。また来年度からナイアード製品の生活クラブ生協千葉カタログ掲載の取り組みを担当する準備を進めました。

2) アーシアンちば

- ・交流支援事業の商品開発に協力してアルカイルアカデミー内の縫製工房で作成したエプロンをセンター・デポー展示会で販売することができました。オリジナルのフェアトレード商品をつくり販売できたことは、アーシアンにとって大きな成果であり、自信となりました。縫製工房での取り組みが縫製科の子供たちにも良い影響を与えています。
- ・生活クラブ生協関連事業の千葉カタログでの販売は安定した事業になってきました。それにより、多くの人々にフェアトレード商品を手にしてもらうことができました。毎回カタログ紙面や商品添付の紙で商品の背景やフェアトレードの意義などを伝えました。
- ・生活クラブ生協茨城との取引が始まりました。
- ・センター・デポー展示会への出展は引き続き行いました。

- ・BOX(委託販売)や地域でのイベント参加で生活クラブ生協組合員以外の方にもフェアトレードを知ってもらう機会を持ちました。
- ・総会で生産者を招いて話を聞くことができました。外部の展示会に行き、生産者の話を聞きましたが、それを多くの人に伝えられなかったことが課題として残りました。
- ・「給食支援キャンペーン」とアレッポの石鹸の売上の一部をシリアに寄付するキャンペーンは継続して行いました。

Ⅲ 啓発・広報事業

今年度より本部ミーティングを開催して話し合いの中で各事業の目的を確認し、ていねいに進めることができました。

1) 啓発

- ・6月の総会后にシリア情勢の講演会を行い、7月にはラオスへの支援をテーマに学習会を開催しました。どちらも参加者が少なく、多くの人に活動を知ってもらう場をどういう形で行うのが課題となりました。
- ・外部イベントへの参加はアーシアン活動を伝えるとともに他団体との交流を深める場となりました。
- ・今年度も生活クラブ生協のコミュニケーション広場に申し込みがあり3回取り組み、アーシアンの活動を多くの人に紹介する場として活用できました。

2) 広報

- ・レターを3回発行しました。本部ミーティングの中で紙面づくりも行ない、複数体制で紙面の充実を目指し活動できました。
- ・コルザ(生活クラブ生協の機関紙)では生活クラブ生協の組合員にアーシアンの活動を伝え、協力を呼びかけました。
- ・事務局が2人体制になったことでホームページ、カンパブログの活用が進みました。フェイスブックも柏ショップで引き続き取り組んでいます。

Ⅳ. 関連団体との協力

関連団体との会議や事業に参加し、情報交換につとめました。

- ・JFSA にはアルカイールアカデミーの訪日の際、話し合いに協力をいただきました。
JFSA の活動に参加し、アーシアンの活動を紹介するとともに情報共有に努めました。
- ・JVC には学習会や報告会で協力をいただきました。また、カレンダー販売の取り組みに協力しました。
- ・生活クラブ生協をはじめ、生活クラブ千葉グループと連携し、情報共有に努めました。

V. 組織運営

理事改選後の1年目となり会の活動の目的を確認し、先を見据えた運営を目指し活動しました。

1) 理事会の開催

- ・今年度より理事会の開催を年4回として、事業の担当のない理事も加わりました。目の前の活動をこなしていくための会議ではなく、今の活動状況を事業方針に照らし合わせ意見を交換することやもっとスパンの長い視点を持ち活動をつくりだすことを目的としました。実際には初めての試みでもあり具体化するまでには及んでいないのが実情です。しかし、新しい理事が加わり、新たな視点からの意見も出て、議論が活性化されました。次年度は、理事会の役割を確認しながら内容の充実に努めます。
- ・理事会の開催を減らしたことで本部の事業は会議の準備に追われず、毎月の本部ミーティングの中で交流支援、啓発、広報事業を取り組むことができました。

2) 会員拡大と仲間づくり

- ・個人会員期首393名、期末(3月末日現在)384名。加入は7名、退会は16名でした。依然として退会が入会を上回る状況が続いており、会員減少を止める有効な対策は未だに見つかっていません。レターやイベント出展時などで、アーシアンの意義と活動の内容を伝えることによって、会員拡大を目指し積極的に発信しましたが、大きな成果には至りませんでした。
- ・団体会員は、生活クラブ生協茨城が加入し、7団体となりました。
- ・今年度の課題である「運営を担当する仲間を増やすこと」は、柏ショップに新たに3名スタッフが入り、目的の達成に近づくことができました。
- ・サポーター登録は会員の転居や脱退などを理由に、廃止せざるを得ませんでした。

3) その他

- ・税務・会計の研修に参加しました。特に、NPOの運営に関する研修は、団体としてのビジョンを明確化することができ、アーシアンのメンバー間で活動の意義を共有することができました。